



# 歯医者さんが教える 歯と口腔の健康管理

## 〔第24回〕 失った歯を放置すると…

監修／歯学博士 鹿島 健司

まずは写真1をご覧ください。右下顎の歯の欠損を長い期間そのままにして



写真1 挺出と傾斜のX線写真

てしまったために、上顎の歯が伸びて（下がって）きてしまった症例です。噛み合う歯がないことによって歯が徐々に伸びてしまうことは臨床でしばしば経験し、挺出と呼ばれて

います。長期間の放置によって挺出が進んでしまうと、歯肉を噛んでしまって潰瘍を作ってしまうこともあり、多くのケースで抜歯になってしまいます。更にこのX線写真からは、下顎の奥歯も真っすぐでなく、欠損した方向に傾斜してしまっているのが分ると思います。

このように失った歯を放置することによって、噛み合わせが悪くなってしまい、ますます噛みにくくなってしまいます。伸びたり傾斜してしまった歯は清掃しづらくなり、歯周病が進行して動揺をきたして抜歯せざるをえなくなるという悪い経路を辿ってしまうことになります。噛み合わせは身体を支えているので、悪くなってしまうと全身に様々な悪影響を及ぼしてしまいます。

食物をしっかりと咀嚼するためには、早期に欠損部分を修復して適切な咬合が与えられなければなりません。そのためにはブリッジ、義歯（入れ歯）、インプラントといった方法があり、それぞれ長所短所があります。

1. **ブリッジ**：欠損部の両側の歯を削って金属やセラミック等の材料で固定し、文字通り歯の無い部分に橋を架ける方法です（図1）。費用をかければ、見た目の仕上がりも良くなります。

長 所：セメントで接着固定するため違和感が少ない。

短 所：ブリッジを固定するために、欠損部周囲の健全な歯を削る必要がある。欠損が多数に及んだり、固定源となる歯の状況によっては適用できない。

治療費：保険が適用されるケースが多いが、見た目が良く、使い心地のよい材料を用いると自由診療になってしまい数万～数十万円かかる。

2. **義歯（入れ歯）**：総義歯、部分義歯がありますが、歯肉（粘



図1 ブリッジの説明図と模型上のブリッジ  
左は保険の金属 右はオールセラミック

膜）や残存している歯を利用して型取りをして、比較的簡単に治療ができます（図2）。

長 所：歯の切削が少ない。

短 所：取り外しを行なうため違和感が多い。噛み心地が悪い場合もあり、歯肉の形態によって硬い食べ物では咀嚼に苦勞する場合もある。ワイヤーを掛ける歯がいたみ易い。

治療費：保険が適用されるケースが多い。金属を用いた薄くて頑丈な義歯や、磁石などの特殊な材料を用いると保険適用がなく数十万円かかる。



図2 部分義歯の説明図と実際の写真

3. **インプラント**：本稿第11回と第12回で述べましたが、顎の骨に人工の歯根を埋め込んで、これが固着した後に人工歯冠を装着する方法です（図3）。

長 所：自分の歯と同じような感覚で噛むことができる。周りの歯を削らず、見た目も自分の歯と同じように仕上がる。顎の骨が痩せるのを防げる。

短 所：歯を抜くのと同等程度の手術が必要となる。強度の歯周病や全身疾患によって、インプラント手術ができない場合がある。

治療費：保険適用外で、ケースによってはかなりの費用を要する。

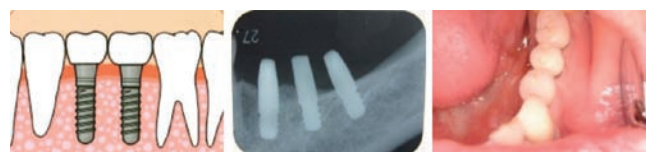


図3 インプラントの説明図とX線写真・口腔内写真

今回は、義歯（入れ歯）についてお話していきます。

監修／鹿島健司（歯学博士）。1958年1月生まれ。かしま歯科医院院長 日本大学兼任講師。川口歯科医師会学術部長